

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立仰木の里小学校

○調査目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

《概要》

学力調査について全国や滋賀県の平均正答率と比較すると、国語では「読むこと」の領域で全国・県平均を上回っています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国・県平均を下回っています。

算数では、「数と計算」、「変化と関係」の領域で全国・県平均を上回っています。「図形」、「測定」の領域で全国・県平均を下回っています。「データ活用」では、県平均を上回っていますが、全国平均は下回っています。

理科では、「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域で、全国・県平均を上回っています。「生命」を柱とする領域では、全国・県平均を下回っています。

質問調査では、「理科の勉強は好きですか」「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いませんか」「算数の勉強は好きですか」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」など算数・理科への関心等の項目が全国・県平均を上回っています。また、「読書は好きですか」という項目では、全国・県平均ともに大きく上回っています。一方で、「国語の勉強は好きですか」など国語への関心等の項目は全国・県平均を下回っています。学校の授業時間以外の学習時間については、長時間(平日3時間以上、休日4時間以上)する子の割合が多いですが、短時間(平日30分未満、休日1時間未満)や全くしない子の割合も多いという結果です。

《強み・弱み》

本校は、学習に「協同的な学び(学び合い)」のスタイルを取り入れ、子どもたち同士で話し合い課題を解決する活動に力を入れて指導しています。そのため、子どもたちは、困難な課題に対しても仲間と協力して取り組む態度が見られ、そのことが成果につながっていると考えられます。

国語科においては、会話文や資料を読み、内容を捉える問題での正答率が高く、文章を読んで内容を正しく理解する力が育っていると考えられます。一方、文章の構成を考えたり、情報の整理の仕方を説明したりする問題と、漢字の正答率が低いという課題が見られました。

算数科においては、選択問題の正答率が高いという成果が出ています。一方、求め方を式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られました。

理科においては、乾電池のつなぎ方や水の温まり方など、知識が身に付いているかを問われる問題の正答率が高いという成果が出ています。一方、資料から必要な情報を取り出し、答えを文章で記述する問題に課題が見られました。

質問調査では、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という項目で肯定的な回答が全国・県平均より高く、自立して前向きに学んでいこうとする態度が育っていることが伺えます。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目も肯定的な回答が全国・県平均を上回っており、児童が安心して相談できていることや地域貢献への意欲が高いことが伺えます。一方で、「自分には、よいところがあると思いますか」という項目では、肯定的な回答が県・全国平均を下回る結果となりました。このことから、一部の子どもたちが自分の良さや強みを十分に実感できていない可能性があると考えられます。今後も、日々の学校生活の中で子どもたちの努力や成長を丁寧に認め、自己肯定感を育む関わりを大切にしていきます。



【指導の充実に向けて】

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改善に取り組み、ペアやグループで考えを聴き合い、「書くこと」を主体に自分の言葉で表現する活動を引き続き多く取り入れていくように努めます。
- ・ 漢字や計算などの学習を丁寧に行い、より一層の基礎基本の定着を図ります。
- ・ 学習の振り返りでは、条件設定(キーワードを入れるなど)をし、朝学習では、テーマを設定した短作文に全校で週1回取り組み、書く力の向上を目指します。
- ・ 会話や文章、資料から取り出した情報を、目的に応じて、関係のある言葉と言葉を線で結んだり、丸や四角で囲んだりするなど、整理する場面を設定します。
- ・ 児童の興味・関心に基づいて学習活動を設定し、資料や文章から読んで理解したことや、友だちと交流したことを基に、自分の考えをまとめたり表現したりする学習場面を意図的に増やします。
- ・ 生活につながる課題を設定し、自分の考えを文章や図などを使って筋道を立てて説明する活動や、図や表など資料から読み取ったことをもとに考察し説明する活動を多く取り入れます。
- ・ 今後も全校体制で「自分を高める3つの行動」に取り組み、「学びへ向かう力」や「人との関係を結ぶ力」をさらに伸ばしていきます。また、「見つけよう☆いいところ」を合い言葉として、月1回の「人権について考える「人権の日」の取り組みや互いのいいところを見つけ合う「みのりの木」の取り組みなど学校全体での取り組みに加え、学級や学年、児童会活動、地域との交流など様々な人との関わり合いの中で、自己有用感を高める取り組みを進めます。